

『里町武家屋敷跡の玉石垣』



所在地 薩摩川内市里町里

活動団体 村西自治会

概要

薩摩川内市の甌島は、平成27年3月16日に国定公園に指定され、長目の浜などの自然、甌島のトシドンなどの文化や歴史が育まれてきた地域であり、里町武家屋敷跡の玉石垣は、島の歴史を伝える代表的な景観である。

地域住民により大切に保全され、近年では、竹灯籠の設置や、甌島に自生する鹿の子百合の植栽により、住民の地域への愛着や誇りを醸成するとともに、訪れる人々を魅了する美しい景観を形成している。

講評

甌島は、鹿島断崖に見られる「甌島の白亜紀-古第三紀層」が日本の地質百選に選定されるなど、特異な地質構造を有しており、海辺の玉石は、貴重な資源となっている。

また、武家屋敷跡の石垣風景は、鹿児島県内の他の地域においても多く見られるが、海辺で採取した玉石を使って積まれた石垣は甌島のみである。

これらを背景とした玉石垣は、保全や維持が大変困難であるものの、集落の方々による手入れが行き届き、統一された美しさは、未来に繋げる遺産である。

近年、観光地としても脚光をあびており、島特有の鹿の子百合と一体となった、歴史と華のあるユニークな景観は、地域の多様な面を表現し、訪れる人々を魅了している。



『須子茂集落の生け垣』



所在地 大島郡瀬戸内町須子茂

活動団体 須子茂集落

概要

加計呂麻島は、世界自然遺産登録を目指す奄美群島の一つで、「にほんの里100選」や「島の宝100景」に選定されるなど、自然豊かな島であり、須子茂集落の生け垣は、自然環境との調和が図られた景観である。

近年、高齢化や人口減少などによる保全が問題となっているが、代々受け継がれてきた景観を、将来の世代に引き継ぐため、集落全体で保全に取り組み、きれいな生け垣で統一し、訪れる人々を昔ながらの空間で楽しませている。

講評

主に月橘(げっきつ)という種で形成される生け垣は、長年にわたり地域の人々に生まれ、周囲の緑濃い山々をはじめとする雄大な自然と調和し、稀有で地域特有の景観を醸成している。

また、保全は、地域住民が主体となって行われているが、高温多湿な気候において、植物で形成された生け垣を維持することは、植物につく害虫や病気が多いことから、大変困難なことであり、さらに、近年では、人口減少などにより人手も不足する中、大変な労力を要する。

このような状況下において、長きにわたり集落全体で保全に取り組み、また、手入れの行き届いた植栽により自然と調和した美しい景観を形成している点は、連続した景観づくりの手本であり、高く評価される。

『阿伝集落の石垣群』



所在地 大島郡喜界町阿伝

活動団体 阿伝集落

概要

喜界島は、世界自然遺産登録を目指す奄美群島の一つであり、全島が隆起サンゴ礁段丘で形成され、また、台風の常襲地帯であり、厳しい自然環境から家屋を守るため、海岸から採取したサンゴを使った石垣が積まれている。

サンゴの石垣は、隙間が多く、夏の暑さ対策にも配慮されるなど、自然や人々の暮らしが織り成す代表的な景観である。

阿伝集落では、先祖から培ってきた伝統技法の継承について意識が高く、また、地域住民による観光ガイドを行うなど、積極的な景観の形成が推進されている。

講評

喜界島は、「日本で最も美しい村」に選定されるなど、美しい自然が多く残る島であり、サンゴが積まれた石垣群は、隆起サンゴの島特有の美しい景観である。

石垣群は、台風対策として長年にわたり育まれてきており、集落全体に広がる圧倒的なボリュームと、ガジュマルやハイビスカスなどの南島の植栽が一体となり、地域の自然と住民の生活が調和した秀逸な景観である。

近年、サンゴは自由に採取できなくなったため、石垣群は、将来の世代に引き継ぐ貴重な資産であり、伝統技法への意識も高く、集落全体で保全に取り組み、人口の減少などにより人手が不足する近年においては、観光客を巻き込むなど、保全活動を工夫している点も評価に値する。

『高須地区生涯学習推進協議会』



所在地 鹿屋市高須町

活動団体 高須地区生涯学習推進協議会

概要

鹿屋市高須町は、太平洋戦争末期に本土決戦が想定された地であり、また、1915年に大隅半島初の鉄道が開通する(1987年廃止)など、歴史や伝統の深い地域である。

このような地域性を生かし、高須地区生涯学習推進協議会では、住民で発掘した史跡を巡る「まちあるきコース」の設定やイベントの開催などの情報発信、景観の整備といった、新たな景観の創出に取り組み、地域資源を生かした地域活性化策を展開している。

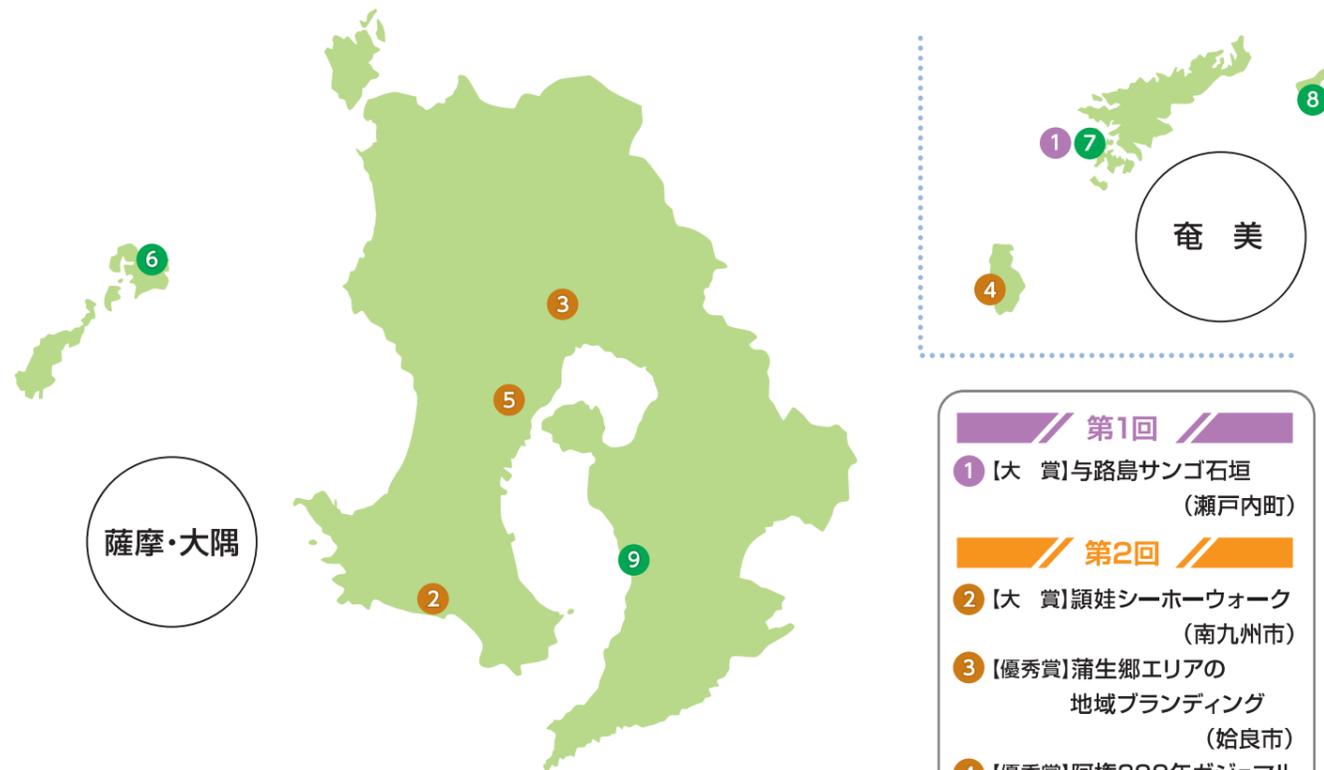
講評

地域全体に展開される景観資源の発掘により、中世から近代までの地域の多様な歴史が確認され、さらに、発掘した景観資源をネットワーク化することで、地域の魅力や個性の創出につながっている。

また、「大隅線開通100年」や「戦後70年」を記念したまちあるきイベントの際、関連する跡地や当時の施設に加え、ネットワーク化し、整理された景観資源を巡るなど、地域の魅力や個性を総合的に発信する興味深い取組が実施されている。

このように、地域全体として継続的に実施されている活動は、地域コミュニティにおけるモデル的な好例であり、今後、さらに魅力的な景観づくり活動に発展することが期待される。

受賞箇所一覧



薩摩・大隅

審査について

景観づくり部門では、「景観を守り、育て、また、新たに創出するための『活動に取り組んでいる』個人又は団体」を表彰することとしている。

今回は、自薦・他薦を含め11件の応募があり、「田んぼアート」、「くつろぎの広場『コーネインヤマ』」、「観光を活かしたまちづくり」は高い評価を受けたものの惜しくも表彰には至らなかったが、今後、益々の取組の推進に期待している。

また、応募のあった他の取組についても、引き続き、規模と内容の充実に努めていただき、地域の方々が愛着と誇りを持てる景観の創出に取り組み続けてほしい。

第1回

1【大賞】与路島サンゴ石垣 (瀬戸内町)

第2回

2【大賞】顕娃シーホーウォーク (南九州市)

3【優秀賞】蒲生郷エリアの地域ブランディング (始良市)

4【優秀賞】阿権300年ガジュマルと石垣の小道(伊仙町)

5【奨励賞】ひらかわ美術館 (鹿児島市)

第3回

6【大賞】里町武家屋敷跡の玉石垣 (薩摩川内市)

7【優秀賞】須子茂集落の生け垣 (瀬戸内町)

8【優秀賞】阿伝集落の石垣群 (喜界町)

9【奨励賞】高須地区生涯学習推進協議会 (鹿屋市)



田んぼアート(南九州市)



くつろぎの広場「コーネインヤマ」(徳之島町)



観光を活かしたまちづくり(旧置市)